



News Release

公益財団法人
骨粗鬆症財団
JAPAN OSTEOPOROSIS FOUNDATION

2018年12月3日

公益財団法人骨粗鬆症財団

【ランキング】骨粗鬆症検診受診率。1位は栃木県。受診率が高い県ほど大腿骨骨折が少なく、要介護率が低い傾向。

骨粗鬆症財団では、厚生労働省の公表データを元に骨粗鬆症検診受診者数を調べた結果を11月末に出版された日本骨粗鬆症学会雑誌に発表しました。受診率は、最も高い栃木県で14.0%、最も低い島根県では0.3%と47倍もの開きがありました。相関解析の結果、検診率が低い地域ほど大腿骨の骨折を起こしやすく、介護が必要になる傾向にありました。骨粗鬆症による骨折や要介護者を減らすためには骨粗鬆症検診に力を入れるべきと思われます。

2015年度の骨粗鬆症検診の受診率は全国平均で5.0%と少なく、高い方から栃木県（14.0%）、山梨県（13.1%）、福島県（13.1%）、群馬県（13.1%）、宮城県（12.1%）の順でした。低い方からは島根県（0.3%）、和歌山県（0.9%）、神奈川県（0.9%）、京都府（1.1%）、北海道（1.2%）の順で、地域によって大きな差があることがわかりました（図1）。なお、高知県では骨粗鬆症検診者数が報告されておらず、実施されていないものと考えられました。

大腿骨骨折により人工骨頭挿入術を受けた患者の割合と要介護率の間には正の相関関係が認められ（図2）、大腿骨骨折が多い地域ではより多くの介護が必要になると思われました。骨粗鬆症検診率と人工骨頭挿入術を受けた患者の割合との間には負の相関関係が認められ（図3）、検診率が低い地域ほど大腿骨骨折を起こしやすいことが示唆されました。また、骨粗鬆症検診率と要介護率の間には負の相関関係が認められ（図4）、検診率の低い地域ほど介護が必要になる傾向にありました。なお、各種の健康診査およびがん検診（健康診査、血圧、脂質検査、糖尿病検査、貧血検査、肝疾患検査、腎疾患検査、胃がん健診、肺がん検診、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診）の受診率と要介護率の間には相関関係は認められず、これらの検査が要介護率を減らすことにはつながらないと思われました。骨折による要介護者を減らすためには骨粗鬆症検診に力を入れるべきと思われます。

骨粗鬆症検診の受診者数は平成27年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進法）、要支援及び要介護者数は平成26年度介護保険事業状況報告、人工骨頭挿入術（股）数は第2回レセプト情報・特定健診等情報データベース、人口は平成27年国勢調査人口等基本集計を用いました。

【お問い合わせ先】公益財団法人 骨粗鬆症財団 担当：磯谷幸宏

TEL：03-5640-1841 FAX：03-5640-1840

HP：<http://www.jpof.or.jp/> Mail：info@jpof.or.jp

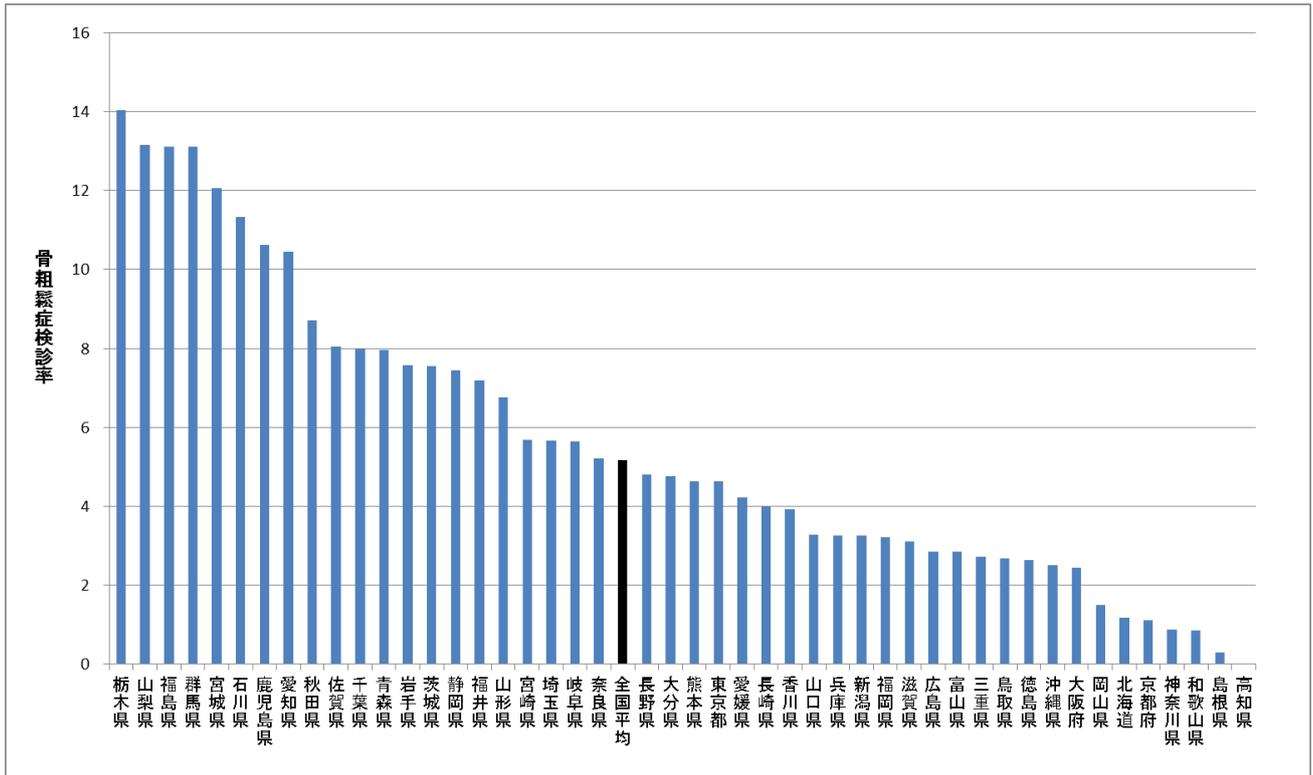


図1 各都道府県の骨粗鬆症検診率

骨粗鬆症検診率 = (40, 45, 50, 55, 60, 65, 70歳の骨粗鬆症検診者数) / (40, 45, 50, 55, 60, 65, 70歳の日本人女性人口)。全国平均の母数には高知県の人口を含む。

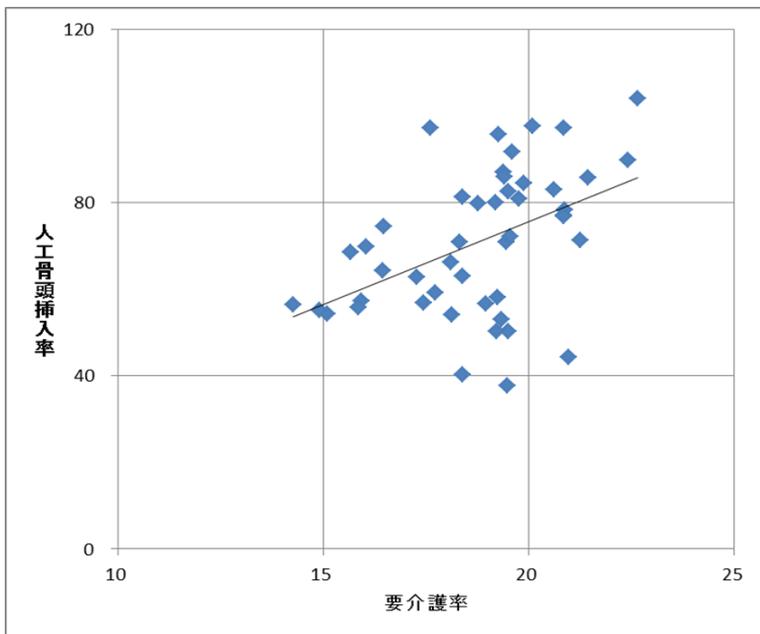


図2 要介護率と人工骨頭置換率の関係 (n=47, r= 0.47, p < 0.01)

要介護率 = (要支援・要介護認定者数) / (65歳以上の日本人男女人口),

人工骨頭置換率 = (人工骨頭挿入術(股)数) / (40歳以上の日本人男女数10万人),

高知県の要介護率(19.6)及び人工骨頭置換率(106.7)を含む

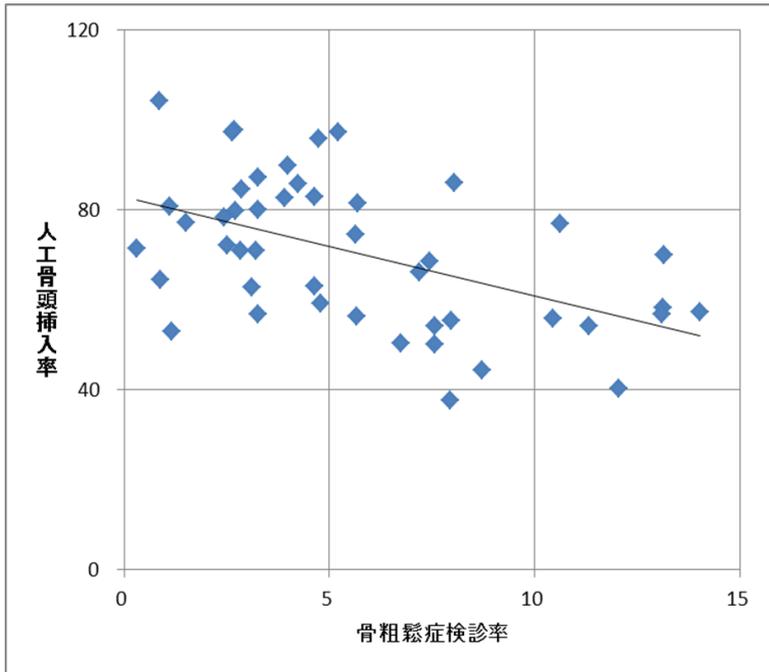


図3 骨粗鬆症検診率と人工骨頭置換率の関係 (n=46, r= -0.49, p<0.01)

人工骨頭置換率 = (人工骨頭挿入術 (股) 数) / (40歳以上の日本人男女数 10万人)

高知県の人口 10万人当たりの人工骨頭置換率 (106.7) は含まない.

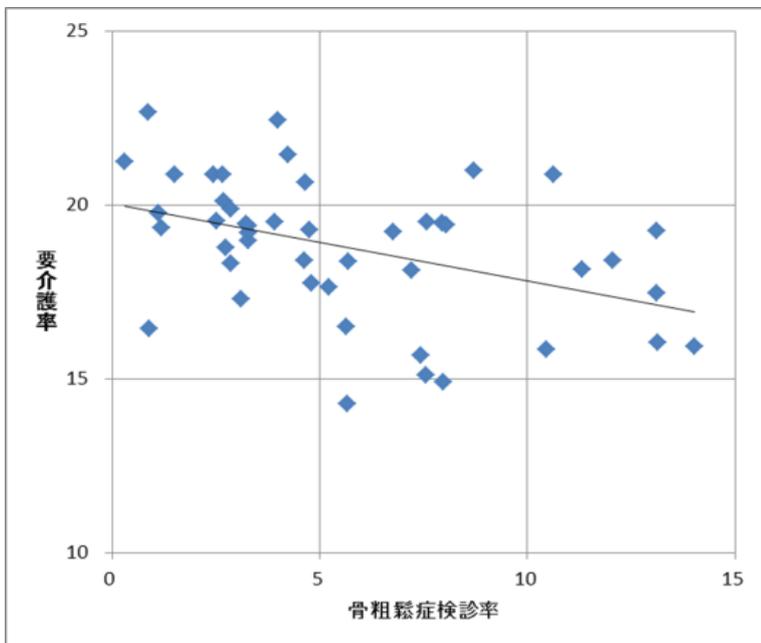


図4 骨粗鬆症検診率と要介護率の関係 (n=46, r=-0.46, p<0.01)

要介護率 = (要支援・要介護認定者数) / (65歳以上の日本人男女人口),

骨粗鬆症検診率 = (骨粗鬆症検診の受診者数) / (40, 45, 50, 55, 60, 65, 70歳の日本人女性人口)

高知県の要介護率 (19.6%) は含まない.